おいらせ町ボランティアセンターだより

ボランティア情報誌

いきいきサロンで何やる?コロナが終息したら





東日本大震災から11年。

コロナ禍でも

第34号 令和4年3月28日発行

編集・発行 社会福祉法人おいらせ町社会福祉協議会

〒039-2222 おいらせ町下前田158-1 いきいき館内 TEL 0178-52-7066

~会員間のつながりを絶やさないために~ 「お便りほからか教室」始めました。

会で活動しています。きがいづくりを目的に現在9教室3愛好祉センターを活動拠点とし、高齢者の生講している「ほがらか教室」は、老人福講している「ほがらか教室」は、老人福

町社会福祉協議会が、

昭和59年

ーから開

てしまいました。いた皆さんが、顔を合わせる機会が減っこれまで様々な教室を通してつながって年度から制限・中止を繰り返しており、しかし、コロナ禍によりその活動が昨年

年3月には第6号を発行しています。いとの思いから、令和2年10月に「お便いとの思いから、令和2年10月に「お便のつながりを少しでも取り戻し、離れてのまがりを少しでも取り戻し、離れてのまることができなくても、会員同士で集まることができなくても、会員同士で

この取り組みでは、ほがらか教室全員

のつながりを絶やさずに続けていきたいいるがりを絶やさずに続けていきたいいまするときまで、これから届けるというものです。届けるというものです。属けるというものです。ながら元気をほしいエピソード、自慢の写真等を募の皆様からの俳句・川柳、みんなに聞いの皆様からの俳句・川柳、みんなに聞い

と思っています。



「いきいき配食お便り」発行しています。

考になりました。

第5号

たいと思います。

訪問時の様子などを紹介しています。

れた対象者に昼食用の弁当を調理し、 サービスを行っています。 事業内容は、配食弁当が必要と判断 人暮らし高齢者等を対象に配食

町社会福祉協議会は、

ら、定期的に「いきいき配食お便り」 した。 発行し情報提供をしています。 も支障が出てきたので、令和2年11月か 認を兼ねて声掛けをし交流を図ってきま に調理と配達を行い、配達時には安否確 クルこでまりの会の皆さんが職員と一緒 達します。これまで、ボランティアサー しかし、コロナ禍により声掛け運動に **あ便り」には、弁当メニューやアン**

ケートの結果・ボランティアさん情報 ら今後も「お便り」の発行を続けて行き ランキングは、今後の弁当メニューの参 に対象者からの食べたい・好きなんです コロナが早く落ち着くことを祈りなが 町委託事業とし 第1号 第2号 第3号 第4号 いさいき配食お便り wverencesting 「新大三2-0登場!? かん 配数円 当をしつかったね でするエヒソート ー pairt 2 KIKIH 8 配食サーヒスの良いPfilaco!

配食ボランティア募集中! 月から金(曜日選べます)、平日9:00~11:30頃まで、 月1回~2回程度の活動です。問い合わせは、社協 八重垣まで。 TEL 0178-52-7066

第6号

第7号

第8号



令和3年度は98袋!



これまでの収集実績



1袋(指定袋)には、約6kgまで詰めることができます。

おいらせ町社会福祉協議会は、集まったキャップを年2回くらいに分けて「NPO法人エコキャップ推進協会」に寄贈しています。

寄贈累計は、NPO法人エコキャップ推進協会ホームページで確認することができます。

令和3年度に学校や町内会など団体等で収集した実績をご紹介します。

※多くの町民の方々からもキャップ収集 にご協力いただいています。



あゆみ児童クラブ

R3.4.23~R4.2.21まで 毎月一回(11回分) 合計103.1kg

向山町内会

R 3. 8. 4 66. 9kg R 3.12.28 30. 0kg R 4. 1.31 12. 7kg

木ノ下小学校

R 3. 8. 6 421. 2kg R 3. 10. 15 133. 2kg R 3. 12. 10 78. 0kg

就労継続支援B型事業所 ベア・ハウス

R 3. 10. 25 1. 7kg

百石小学校

R 3. 4. 24 59. 5kg

R 4. 2. 25 39. 0kg

(プルタブ 17.9kg)

百石小学校ボランティア委員会の 皆さんからの感想



- ・みんなが頑張って集めたので、良いことに使ってほしい。
- ・今年はきれいなキャップが多くて助かった。
- ・初めて活動してみて、みんなで協力してできて良かった。

木ノ下中学校

R 3. 4. 14 24. 1kg

R 4. 2. 25 117. 0kg

木ノ下中学校環境委員会委員長さんからの感想



- ・思っていたよりもたくさん集まった。
- ・全校生徒みんなで一つのことを行うことができてよかった。

NPO法人エコキャップ推進協会とは…

2005年5月、ペットボトルのキャップを集め、医療支援に換える運動を始めようといくつかの団体に活動の参加を呼びかけた。

2006年1月、任意団体「エコキャップ推進全国連絡協議会」を設立。

2007年8月、「エコキャップ推進協会」を設立。

2010年11月、第7回目になる医療支援として18,000,000円を寄付。

2011年5月から9月に、東日本大震災で被災された宮城県・岩手県・福島県・茨木県に義援金合計40,000,000円を寄付した。

エコキャップ運動の目的は、「リサイクルの促進」「CO₂の削減」「売却益で発展途上国の医療支援」の3つであったが、現在は、「障がい者・高齢者雇用促進」など4つの目的がある。

= 次第(予定)

- 1. 開会
- 2. 活動報告

演題 transforming our world

~ 私たちにできること ~

BYEゴミプロジェクト 代表 渡辺愛子 氏

(おいらせ町在住 N高等学校3年生)

- 1. 自己紹介 2. BYEゴミプロジェクトとは
- 3. ポイ捨てゴミの現状 4. 討論結果 5. 啓発紙芝居
- 6. SDGsクリエイティブアイデアコンテスト2021受賞作品紹介
- 3. 第1回地域ふくし川柳コンクール表彰式
- 4. 式典
 - 1) 黙祷
 - 2) 式辞
 - 3) 名誉大会長挨拶
 - 4) 表彰

表彰の部

◇社会福祉事業協助者

佐々木洋子 蛯名ゆり子

佐藤けい子

小向チヱ

感謝の部

◇社会福祉事業協助者

江渡リツコ

久保田よし子 川端弘子

小向絹子

(敬称略)

- 5)来賓祝辞
- 6)謝辞
- 5. 閉会

表する機会を設けたいと考えて

となりました。コロナの影響で の交流協力員」や「配食ボラン表彰を受けられたのは、「ほのぼ です。 記念品をお届け 被表彰者の方々には後日賞状と 動はこれからも続けて行くとの 4月から大学生になりますが活 て活動してきた渡辺愛子さんは、 だったポイ捨てゴミ0を目指し ランティア活動をしてきた方々 ティア」で長い間地域などでボ ことです。大学受験を控える中 活動報告」 小 「活動報告」 か 開催する予定でしたが ありませ の準備をしてもらい 15回大会に倣い 今年度は規模 しました。 んがいつか発 をする予定



宮城発防災ケ -ム体験会に参加

た。

た2つの防災ゲームの体験会に社協職員4名が参加しまし

験を通じて学び・考えていただけることを目指して作成され 合う」そのような災害からの教訓を子どもから大人まで、体 はますます高まっています。 生したことなどから、防災意識の普及啓発の必要性・重要性 このたび「暮らしに合わせて備える」・「困った時には助け この間、全国各地で台風・豪雨・地震など様々な災害が発 東日本大震災の発生から11年が経ちました。

oomで開催しました。 トオフィスHumanBeing』で『一般社団法人コミュ |ティ・4・チルドレン』が協力し、今回は、ウェブ会議と 主催は、主に宮城県で活動している『くらしの学びサポー

を聞いてからゲーム体験をしました。

1ゲーム約20分から50分で体験できます。

から防災意識の普及啓発に努めていきたいと考えています。 験会に参加した社協職員が講師を務めながら、ゲームの普及 福祉団体・学校などに貸し出しを行う予定です。最初は、体 ゲームは、町災害ボランティア連絡会で購入し、町内会や ゲームは2種類で、ともに2人~6人がグループになり、 当日は全国各地からの参加があり、ゲームについての説明 また、避難所運営ゲーム「HUG」も貸し出ししています

ので、興味ある方はお問い合わせください。

問い合わせ: おいらせ町社会福祉協議会 TEL 0178-52-7066





カーススイオンモール下田ガテラ様より 食料品の寄贈がありました。

大切に活用させていただきます。

※寄贈品の一部 です。

で一斉に「フードドライブ」を実施しています。 おりに、カーブス様では、地域貢献・社会貢献を目的に2007年より毎年全国の店舗を目的に2007年より毎年全国の店舗で一斉に「フードドライブ」を実施しています。 物はする新型コロナウイルスの影響により経済的に困窮している方々やおいらせり経済的に困窮している方々やおいらせり経済的に困窮している方々やおいらせり経済的に困窮している方々やおいらせり経済的に困窮している方々やおいちだいます。



フードドライブとは…

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらを取りまとめて地域の福祉団体 や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。

アメリカで食品ロスの削減と生活困窮者支援の目的で始まったと言われています。

学校や職場、イベントなど、人の集まるところならいつでもどこでもできるボランティア活動です。